

小別沢新聞

1月

2023年(令和5年)

第15号

発行：札幌市農政部
(TEL 211-2406)
編集：株式会社ダズリング
(TEL 615-7000)

郵送による定期購読を希望される方は、札幌市農政部までご連絡ください。

小別茶話会の報告

第9回 2022年11月15日開催

今年度3回目となる小別茶話会が11月15日(火)午後4時から始まり、参加者は6名(町内会員(特別会員含む)5名、地域外1名)でした。10月22日(土)にNPOあおいとりの主催により行われた「さとやま体験会&マルシェ」を振り返り、今後の取組にどう活かしていくかなどについて意見が交わされるとともに、市からは、来年度の予定について説明がありました。

【さとやま体験会&マルシェの振り返り】



小別沢新聞第14号でお伝えしたとおり、さとやま体験会&マルシェには予想を超える人が訪れ、たくさんの方が駐車場に車を停め、歩いて小別沢を巡りました。はじめて小別沢を訪れたという方もいて、小別沢の魅力を発信する良い試みとなったようです。

反省点としては、開催時期が予定より遅くなり、直売所で販売するものが少ない時期になってしまったことが挙げられました。味噌をつくるだけでなく、材料となる大豆を植えるところから

ら体験したり、つくった後に前年度に仕込んだ味噌の試食をしたりするのはどうかかなど、より良いイベントに成長させるための意見も出ました。また、一度に大きなイベントを開催するのではなく、小さなイベントを継続的に開催し、一つの取組に偏らず、地域にある個々の良い取組を複合的に里山全体に拡げていき、その役割を中間支援団体が担っていく取組方についてもイメージが共有されました。

令和4年3月にも開催されたこのマルシェイベントですが、今年度までは補助金により運営費を捻出していました。来年度以降も実施するためには収益性も視野に入れながらの運営になることから、より多くの人に参画してもらえる構想が必要になります。課題こそ多く残りますが、今後はより地域の方々との深い連携や、様々な活動を多角的に行っていくチャ

レンジングな姿勢が重要になってくると感じました。まずは色々取り組んでみる・うまくいった事例の真似をしたり拡げてみる・それらを継続して実施する(繰り返し)ということが重要なのではないのでしょうか。

谷口町内会長からは、町内会としてサポートできることもあるかもしれないので、必要なことがあれば気軽に相談して欲しい、という話もあり、地域との連携強化が期待されます。

小別沢には、畑のプロ・木工のプロ・林業のプロなど、その道の先生がたくさんいます。地区全体を大きな学校と捉えるとともに、福祉との関わりを持つことができたという未来像も語られました。

【市から】

里山事業についてまとめたリーフレットの家が紹介されました(別紙参照)。小別沢で進めている取組のPRになるよう、年度末を目標にみなさんに意見を聞きながら作成を進めるそうです。

今後の予定については、市が行ってきた小別茶話会と小別沢新聞を次回で終了し、

第10回小別茶話会 最終回

日時：令和5年1月17日(火) 16:00~17:30
場所：小別沢会館(札幌市西区小別沢49)

*町内会以外の方で初めて参加を希望される方は準備の都合上、事前に下記担当者までご連絡ください。

☎211-2406 (札幌市農政部農政課 内野・石堂)

和5年度からは、地域(市民)が主体となった取組を市が支援する体制へ移行していくとのことです。また、地域の取組を支援する補助制度を開始するとともに、森林整備等を継続することです。詳細については別紙をご覧ください。



※リーフレットイメージ



収穫前の小麦

最近、小別沢で小麦畑を目にしたことはありませんか？今回は、小別沢で株やまのかいしゃが取り組んでいるさとやま農園の「小麦」について、代表の永田さんにお話をうかがいました。

小別沢では、過去に馬用の

えん麦が作られたこともありましたが、小麦が作付けされるのは初めてのこと。なんで小麦？ちゃんと育つの？収穫した後はどうするの？など、地域の方にとっては気になる存在なのではないでしょうか。

まずは、小麦を栽培する理由を聞きました。小麦は野菜よりも少ない労力で栽培(粗放管理)することができ、作業スケジュールを組みやすく、経験がなくてもある程度の収穫が見込める作物だそうです。さとやま農園に関わるほとんどのメンバーは都市住民で、取組の柱となる作物は、こうしたものが現実的なのだそうです。里山といえど田んぼ(お米)がつきものですが、小別沢には田んぼがないため、代わりの主食として穀類があると、農的な暮らしにつながるのではとの想いもあるそうです。

令和2年に初めて春播きのライ麦に挑戦。令和3年には面積を増やして春播きの「春よ恋」や秋播きの「きたほなみ」を作付け。令和4年には秋播きの「ゆめちから」を作



さとやま農園メンバーによる製粉

付けするなど、試行錯誤を続けています。

コンバインで収穫した後は、ビニールハウスの中で乾燥させ、保管します。その後、必要な量をその都度小型の機械で製粉(右写真)して、みんながよく知る小麦粉になります。畑作業に参加した人と分け合い、余った分はレストランや製菓店へ卸したり、マルシェなどで販売(左下写真)しています。

今年(令和4年)は4反で600〜700kgの収穫があったようですが、小麦粉だけでなく、パンなどに加工して販売することも検

討しているそうです。

小麦からは、ほぼ同じ重さのパンが焼けるそうで、例えば、1kgのパンを1500円で販売する場合、年間1tの小麦から1tのパンが焼け、約150万円の売上になります。これは、1週間に1kgのパンを20個焼けばよい計算になり、大きな負担とならずに家計の足しにすることができま

す。やまのかいしゃが考えるのは、プロの農業ではなく、プロとアマの中間的な存在で、技術力や収益、かける時間も半分程度のセミプロ的な兼業農家。小別沢は地理的に

付いているそうです。



マルシェで小麦を販売

も田舎とまちの中間にあり、なんでも中間の農的な暮らしをする「中間農家」が、プロの農家ができないことを埋め(補い)、街の人との関係を深めながら地域を活性化していく:そんなビジョンを叶えるために、小麦栽培に可能性を感じているそうです。

令和4年7月には、円山動物園とのつながりで、小別沢の森の枝葉をゾウの餌として動物園に届け、ゾウの糞からできた堆肥を畑に戻す試みも始まりました。

将来的には、小別沢の小麦でこねたパンを小別沢の薪で焼いたり、小麦の製粉時に出るふすまを餌にして牛や羊からチーズをつくり、牛などの糞を畑に戻すなど、夢が広がります。

グローバル社会になり、資源の流れが見えづらくなっているこの時代、身近なところで資源の循環を感じることが、とても貴重で大切なことなのかもしれない。

小麦が秘める可能性をうかがい、令和5年の収穫がいまから楽しみになってきました。

小別沢の あのヒト このヒト

清水 郁太郎さん

※新型コロナウイルス蔓延の状況を鑑みて、今回はインタビュー形式ではなくコラム形式で掲載します。

「小別沢暮らしと創作」

三十数年前に小別沢に越してきました。札幌の街中で木工を始めて5年ほど経ち、森の中の手作りの生活にあらがれていた僕が、古い民家とその周りの敷地を借りることができたのは本当に幸運でした。*。屋根や下水などを自分で修理しながら暮らし始めました。*。現在には所有春には山菜採りと小さな畑作り。夏には枯れた木を集めて薪を作り、秋には木の実の収穫を楽しみます。最初の頃は、特に古い家ゆえの冬の寒さがこたえましたが、子ども達やその友達を集めてのそり滑りには最高の場所でした。家の改修は進みましたが、あ

です。

森の中に住んでいると、動物との関わりも広く深いものになります。鳥は、姿をよく見るシジュウカラの仲間やキツツキの仲間のほか、たくさん声が聴こえ、名前を調べていくと五十種類近くになります。一度玄関の屋根の下にオオルリが巣を作り子育てをした時は、わが家にも青い鳥が来たと感じたものです。



玄関前にオオルリが営巣

家の修復がまだ進んでいない頃はリスが屋根裏に入つて巣を作ったこともあり。屋根の上を行き来するバタンバタンという音で毎朝目を覚ました。ヘビの姿を時々目にしてハッとしますが、ネズミを捕まえてくれる大事な存在です。タヌキが工房の床の下で

子育てをしたのも、ここならではのエピソードです。臆病と聞いているタヌキですが、幼いタヌキはかまわず人に寄ってきました。



タヌキの子ども (体長約 20cm)

蚊やスズメバチをはじめ、虫たちとうまく折り合いをつけなければならぬ気がかりもあります。ここに住まなければ知らなかった様々な生物の営みは、自然を愛し自然をどう生かすか考える大事な材料になります。

自身の木工制作では、動く仕掛けがあったり、音が出るものを多く作っています。作者の独自性ということは、美術の道に進んだ時から今でも変わらない課題ですが、その意味で最近大事にしているのは、自分の身近にある物です。材料として自宅敷地内の木を

多く使い、作品のテーマもここで目にする動物や自分の経験する生活の出来事などを取り入れるようになりました。



「きつつきコール」
2022年

「雪かきマン」は、雪国に暮らす人共通の苦労を受け止めて、少しでも前向きに行きたいなという気持ちで考えました。



「雪かきマン」
2021年

時々木工講習会の講師もしています。今年おこなった「小別沢を知ろう」という町内イベントでは、小別沢で採れた木の樹皮付きマグネットを作りました。参加者の皆さんが木の種類の違いや、変わった木目の所に興味を持ってくれてとても楽しかったです。



2022小別沢里山体験講習会
「小別沢の木10種の樹皮マグネット」



清水郁太郎(木作家)
しみずいくたろう

- 1962 東京都生まれ
- 1984 道教育大札幌特美卒
- 1985 工房遊木民開設
- 2003 TVチャンピオン優勝
- 2019〜飛生芸術祭に出品

きつつき
コール

作品動画
YOUTUBE

雪かきマン

里山事業の
スケジュール

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
小別沢新聞			第12号		第13号		第14号		第15号 (この号)		第16号 最終回	
小別茶話会			第7回 7月12日(火)		第8回 9月20日(火)		第9回 11月15日(火)		第10回 1月17日(火) 最終回			
森林整備 森林経営管理法				森林作業道 づくり	森づくりの 説明会							



小別沢の情報を発信します!!

(株)やまのかいしゃのホームページでは、小別沢の地域づくりに関わる情報を発信しています。小別沢でホームページを公開している方のリンクも大歓迎です。

<https://kobetsuzawa-satoyama.localinfo.jp/>



お問い合わせ先：✉ yamanokaisya.info@gmail.com



これまでの小別沢新聞は札幌市役所公式ホームページで公開しています。

札幌 里山 で検索!

<https://www.city.sapporo.jp/nogyo/satoyama.html>

